

教育委員会だより - 学(まなぶ) - 6月号

教育委員 伊藤 沙織

「最近どんな本を読みましたか？」

そう聞かれて答えられる人はどれくらいいるでしょうか。電車などの移動時間、寝る前のちょっとした時間、スマホで見るのは SNS や動画ばかり…という方が今はとても多い気がします。

私は物心ついた頃から本を読むことが大好きで、今でも毎週図書館に通い、1週間に1冊くらいのペースで本に親しんでいます。もちろん動画や SNS も情報を得たりコミュニケーションを取るのにはとても大切な存在です。ただやっぱり本から得られる没入感と満足感は動画や SNS とは比べ物にならないと感じる今日この頃です。

現代の子どもたちは生まれた時からデジタルに囲まれて育った世代です。最近ではショート動画ばかり見るために、漫画すら読めない子どもたちも増えているそうです。少しでも本に触れてもらいたい、本の面白さを知ってもらいたい。そう思い、小学校でクラブ講師のボランティアを始めることにしました。その名も「おはなしクラブ」。当初の目的としては読み聞かせのやり方などを教えることでしたが、1年間ただ読むだけではつまらない、どうせならオリジナル絵本を創作してみるのはどうだろうということで、真っ白な絵本を1人に1冊渡すことにしました。

入ってきた子たちは様々で、元々本が好きな子、イラストを描くのが好きな子、他のクラブに入れずこのクラブしかなかったという子もいました。最初の頃は何を描いたらいいか悩んでいた子が多かったのですが、最後のクラブの日にはみんな1冊の本を完成させることができました。

絵本の仕組みはどうなっているのか、物語の組み立てはどうなっているのか、自分だけの図鑑を作りたいから参考になる資料はあるか…子どもたちは学校にあるたくさん本を手にとって見ていました。思えば動画やゲームなどはひたすら与えられた情報を流し込むだけで自分の主体性はとても少ないように感じます。アウトプットするためには適切な質の高い情報を選びインプットし組み立てることが重要で、今回、本ならではの良さを存分に活用できたと思います。

出来上がった作品は物語としての完成度も高く、本当に驚きました。活動をしていく中で、「人形劇をやりたい」「ペープサートをやりたい」といった子たちもいました。最終的に低学年への発表もでき、こちらが想定していた以上に活動の幅が広がりました。

「読書がいいと言われるけど、じゃあどんな本を読んだらいいの？」

子どもたちからよく言われる言葉ですが、大人も同じかもしれませんね。最近では自分の性格、今の気分、いつどんな状況で読むのかに合わせて、AI が本を紹介してくれるアプリなんかもあるようです。一度利用してみたのですが、普段だったら選ばないジャンルを紹介されました。せっくなので図書館で借りてみるとなかなか面白い。読書の幅が広がってよかったです。

ただやっぱり、数ある書籍の中から自分で選ぶ楽しみは捨てがたい。私も週に1回は子どもたちを連れて書店や図書館へ行き自分たちで本を選んでいきます。1時間や2時間滞在することも。贅沢な時間の使い方です。最近息子も娘も「この本面白かったから母も読んでみたらいいよ」と自分が読んだ本をお薦めしてくれるようになりました。そんな風に家族で本を共有するのなんて、小さい頃に読みきかせしていた以来だなどとしみじみ。私は0歳向けの読み聞かせのボランティアもしているのですが、赤ちゃんのお母さんから「この絵本小さい頃に読んだことがあります」と言われることがあります。こうやって親から子へ、子からまたその子どもへと繋がっていくことができるのはとても素敵なことですね。

皆さんも寝る前の10分、スマホを見るのではなく本を読んでもみるのはいかがでしょうか。